

国指定史跡 有岡古墳群



善通寺市内には400基を超える古墳の存在が確認されています。中でも筆ノ山・我拝師山で北部を、大麻山で南部を限られた弘田川流域の有岡地区には、同一系譜上の首長墓と考えられる前方後円墳が集中し、大麻山山麓の谷間には至る所に後期古墳が群集することが知られています。

中でも王墓山古墳・野田院古墳・磨臼山古墳・鶴が峰4号墳・丸山古墳・宮が尾古墳は、3世紀末から7世紀初頭にかけて築造された県下を代表する古墳です。これらの古墳は当地域における歴代の首長墓であり、讃岐の古代史解明に重要であるばかりでなく、特に王墓山古墳から出土した豪華な副葬品は、中央や先進地域との緊密な交流を示す貴重な資料です。

この6基の古墳は、昭和59年11月29日に「有岡古墳群」として国の史跡に指定されました。ここでは整備が完了した3基の古墳を紹介します。



古墳の日 「古墳の日」の公開時間
8:30から 15:00まで

「古墳の日」…毎年4月29日(昭和の日)に古墳内部を一般特別公開しています。

主催(お問合せ先) 善通寺市教育委員会 生涯学習課 ☎0877-63-6328

みやがおこふん 宮が尾古墳

宮が尾古墳は大麻山と我拝師山に南北を挟まれた谷部の南側低丘陵上に、7世紀初頭に築かれた終末期の装飾古墳で、横穴式石室の中には人物や馬・船などが多数描かれています。石室は全長9m、玄室長4.5m、幅2.2m、高さ2.5m、羨道長4.5m、幅1.2~2.0m、高さ2.0mです。

墳丘は地中に埋没していましたが、保存整備のための発掘調査によって直径約20mの円墳であることが確認されました。調査の際に新たに発見された2号墳と共に保存整備工事が行われました。史跡公園内には、

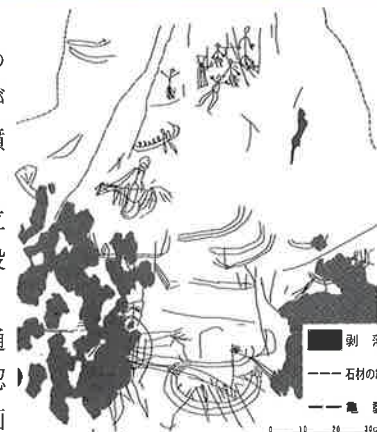


有岡古墳群全体を示した周辺地形の立体模型や横穴式石室の実物大模型も設置されています。(上写真)

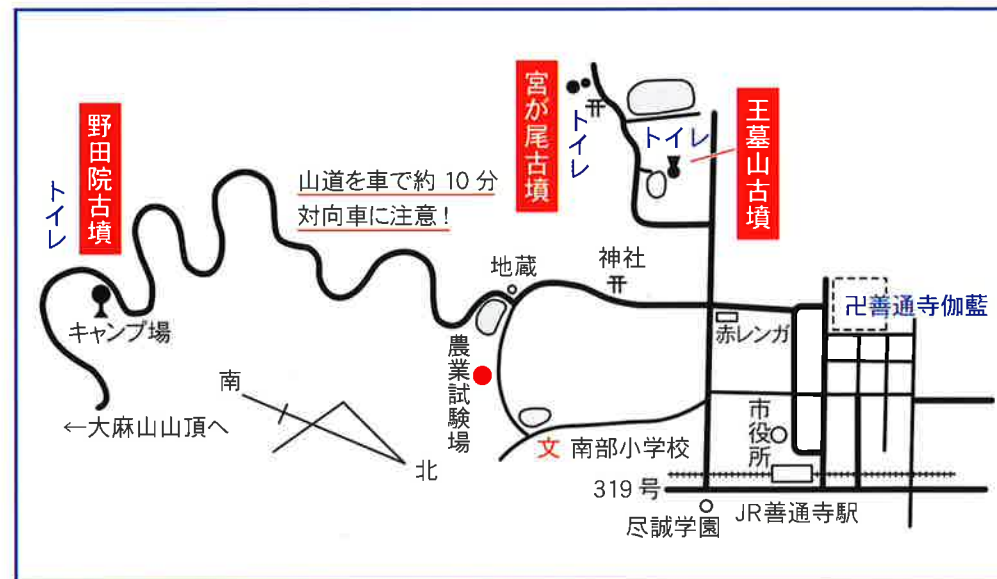
県内では坂出市の鷲ノ口古墳や善通寺市の岡古墳群などでも線刻画は確認されていますが、宮が尾古墳の線刻画玄室西壁の武人像は他のいずれのものよりも内容が充実し優れており、古墳時代の葬送儀礼の一端をうかがえるばかりでなく、当時の習俗を私達に視覚的に伝えてくれる貴重な資料です。



整備後の宮が尾古墳



奥壁の線刻画



おうはかやまこふん 王墓山古墳

王墓山古墳は有岡地区の中心に所在する独立丘陵上に築かれた前方後円墳で、早くから注目されており、既に大正時代には史跡名勝記念物として調査報告が行われています。

その規模は全長46m、後円部径28m、後円部の高さ6m、前方部幅約28m、前方部の高さ5m程ですが、独立丘陵上にあるため巨大に見えます。

この独立丘陵はミカン畑として開墾されていましたが、宅地造成の届け出がなされたため、善通寺市教育委員会は昭和57年11月から翌年3月にかけて遺構確認のための発掘調査を実施しました。

ここはかねてから盗掘の伝承があり、調査の成果はあまり期待されていませんでしたが、発掘調査が進むにつれて貴重な発見が次々となされ、県内は勿論のこと全国的に見ても極めて貴重な遺跡であることが確認されました。



金銅製冠帽

主体部は横穴式石室で、玄室からは多量の遺物と共に県下では初めて、瀬戸内海一帯でも数少ない「石屋形」が出土しました。石屋形は肥後地方から北部九州に濃密な分布を示します。同様の石屋形は、北西約400mに位置する菊塚古墳(前方後円墳)でも確認されています。

発掘調査によって出土した副葬品は須恵器・土師器などの多量の土器の他、首飾り・耳環などの装飾品、武具・馬具類、全国でもほとんど類例がない金銅製冠帽など、どれも素晴らしいもののばかりです。

また、多数出土した鉄刀のうち1本に連弧輪状文の銀象嵌があることが判明しました。金銅製冠帽や銀象嵌のある鉄刀は優秀な渡来工人が大和政権下で制作を担当し、大和政権が地方の首長に権力の象徴として贈ったという考え方が有力です。王墓山古墳が副葬



墳丘実測図



検出された横穴式石室と石屋形



王墓山古墳出土遺物(善通寺市立郷土館蔵)

鉄刀の象嵌

のたのいんこふん 野田院古墳

野田院古墳は大麻山北西麓のテラス状平坦部(標高405m)に所在する丸亀平野で最古式の前方後円墳です。

その規模は全長44.5m、後円部径21m、後円部の高さ2m、前方部幅6~13mで、前方部は盛り土、後円部は安山岩塊を積みあげて築いた積石の古墳です。また、前方部はくびれ部が細く縮まり先端が撥形に開く発生期の前方後円墳の特徴を示していることや出土遺物などから、3世紀後半に構築されたと考えられています。

市内には外にも、大窪経塚・大麻山経塚・大麻山椀貸塚・丸山1・2号墳などの積石塚があります。積石塚は、坂出・綾歌の積石塚を経て高松の石清尾山古墳群までの範囲に濃密に分布しています。積石塚古墳の発生と変遷を研究し、讃岐の古墳時代前期の地域集団関係を知る上で非常に貴重な遺跡です。



墳丘実測図



整備前の野田院古墳



整備後の野田院古墳

品の豊富さや独特な石室の構造などから、我が国でも有数の古墳と評価されていたことが改めて裏付けられた訳です。

王墓山古墳の鉄刀と同じ象嵌模様を持つ鉄刀が、群馬・奈良・島根・熊本の古墳からも出土していますが、いずれも古墳時代の日本を代表する先進地区で、これらの資料は当時の大和政権の勢力伝播、つまり大和政権と地方豪族の関係を推定する上で極めて重要な資料といえます。

王墓山古墳の築造は出土した遺物などから6世紀初頭であり、6世紀後半頃に追葬が行われたことが確認されています。



整備後の王墓山古墳